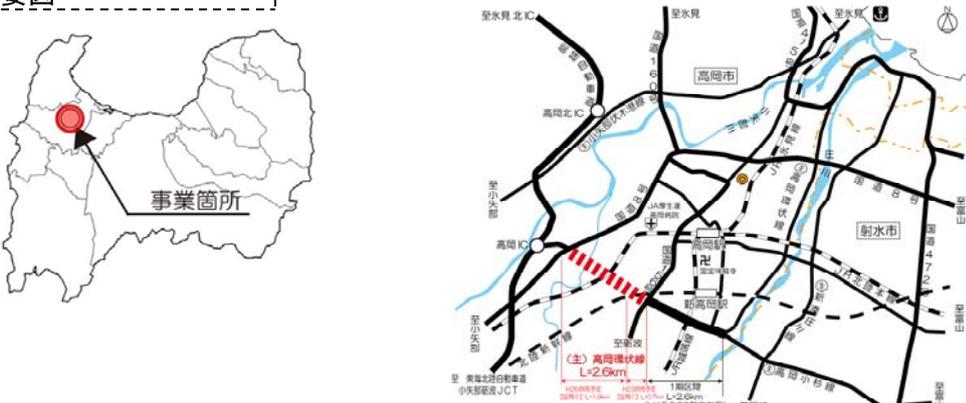


## 再評価結果（平成23年度継続箇所）

担当課：道路局環境安全課  
担当課長名：吉崎 収

<b>事業名</b>	地域高規格道路 <small>たかおかかんじょう</small> 高岡環状道路 主要地方道 <small>たかおかかんじょう</small> 高岡環状線	<b>事業区分</b>	地方道	<b>事業主体</b>	富山県
<b>起終点</b>	自：富山県高岡市佐野 至：富山県高岡市六家	<b>延長</b>	2.6km		
<b>事業概要</b>	主要地方道高岡環状線は、延長約20kmの高岡環状道路の一部を形成する、約2.6kmの地域高規格道路である。本路線の整備により、能越自動車道高岡ICから北陸新幹線新高岡駅（仮称：H26開業予定）へのアクセスに寄与し、高岡市南部地域の利便性向上が図られる。				
H13年度事業化	H7年度都市計画決定	H13年度用地着手	H14年度工事着手		
全体事業費	170億円	事業進捗率	71%	供用済延長	—km
計画交通量	12,600台/日				
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.5 (残事業) 6.0	<b>総費用</b> (残事業)/ (事業全体) 44/173億円 (事業費：43/172億円) (維持管理費：1.3/1.3億円)	<b>総便益</b> (残事業)/ (事業全体) 266/266億円 (走行時間短縮便益：194/194億円) (走行経費減少便益：57/57億円) (交通事故減少便益：15/15億円)	<b>基準年</b> 平成22年	
<b>感度分析の結果</b>	残事業について感度分析を実施				
交通量変動	B/C = 6.7 (交通量 +10%)	B/C = 5.4 (交通量 -10%)			
事業費変動	B/C = 5.5 (事業費 +10%)	B/C = 6.7 (事業費 -10%)			
事業期間変動	B/C = 5.9 (事業期間 +20%)	B/C = 6.2 (事業期間 -20%)			
<b>事業の効果等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路整備区間指定 高岡市上伏間江～高岡市六家 5km H7.4）</li> <li>円滑なモビリティの確保（高岡市街地から能越自動車道高岡ICへのアクセス向上）</li> <li>個性ある地域の形成（国宝「瑞龍寺」へのアクセス向上）</li> <li>安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設「JA厚生連高岡病院」へのアクセス向上）</li> </ul>				
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>	高岡市などで構成される「高岡環状線建設促進期成同盟会」から早期整備の要望を受けている。				
<b>事業評価監視委員会の意見</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業継続については妥当である。</li> <li>富山県知事の方針：委員会の意見を受け、事業継続とした。</li> </ul>				
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年11月に高岡市と西砺波郡福岡町が合併した。</li> <li>東海北陸自動車道は、平成20年7月に全線開通し、能越自動車道は、平成21年度までに小矢部砺波JCT～氷見北ICまで順次供用され、残区間の整備も進められている。</li> </ul>				
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b>	【事業執行額】事業費約120億円（進捗率71%）、うち用地費49億円（進捗率94%）				
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b>	平成26年度の北陸新幹線開業までの暫定2車線供用を目指し、進捗を図る。				
<b>施設の構造や工法の変更等</b>	現場発生土砂を再利用し、不足分は新幹線工事などの他工事から受け入れてコスト削減を図っている。				
<b>対応方針</b>	事業継続				
<b>対応方針決定の理由</b>	以上の事業の効果及びコスト削減などの内容、公共事業評価委員会における審議、知事の方針を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
<b>事業概要図</b>					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。